

代表取締役

鈴木拓哉

×

ゲスト

志垣太郎

周囲の信頼に応える確かな運送で 盤石な経営基盤を築きさらに上を目指す



【鈴木社長の足跡】

北海道札幌市出身。学業終了後は『佐川急便』に入社して1年ほど働き、別の会社に移って長距離トラックのドライバーになった。その後は業界を離れて夜の仕事に就くも、埼玉県で起業していた先輩の元で修業することになり、経験を積んで物流業で独立。『MTトランスポート』を立ち上げた。

一般貨物運送、軽貨物運送を手掛け、24時間365日、クライアントの要望に応えている『MTトランスポート』。培ってきたネットワークを活かし、車両手配も全国対応可能だという。大手企業との運送契約も結ぶなど、順調に経営を進めている鈴木社長のもとを、本日は俳優の志垣太郎氏が訪問。インタビューを行った。

一度は別の業界に移るも 再び運送の仕事に戻り、独立

—鈴木社長は、いつごろから運送のお仕事をされているのですか。

高校卒業後すぐからです。当時「稼ぎたい」という意欲が強かったので、頑張れば頑張るほど給与に反映されると聞いていた『佐川急便』に入りました。今とは時代が違いますから、確かに稼ぐことができましたが、めちゃくちゃ大変でしたね。その後は別の会社に移って、長距離トラックのドライバーになったんです。そして10年ほどは運送業界に就いていましたが、30歳手前で夜の仕事に就きました。

—全然別の世界に移られたのですか。どんなきっかけがあったのですか。

ガソリンの高騰などで、どんどん給料が下がっていったんです。辞める直前は、入社当時の半分位まで給料が下がっていたんですよ。頑張った分だけ稼げるという業界の魅力が感じられなくなってしまったので、思い切って別の世界に飛び込んだんです。そして3、4年夜の世界で仕事をしていましたが、埼玉県で起業していた先輩に、偶然札幌で出会ったんです。そして「運送の経験があるなら

やってみるか」と誘われ、地元である札幌から埼玉県に移り、先輩の物流会社で修業を始めました。

—その時には、将来の独立を見越しておられて？

はい。ですから運転はもちろん、スタッフの割り振りや経理など、あらゆることを学びました。睡眠時間は2時間程度しなく、さらに休日も独立資金を稼ぐためにアルバイトをしていたんです。そうして寝る間を惜しんで1年ほど無我夢中で働き、この『MTトランスポート』を立ち上げました。

厳しい条件での要望に応え 信頼を獲得し成長

—目標に向かって一直線に努力をし、独立を果たされたのですか。現在は、主にどのような商品を運んでおられるのでしょうか。

メインはタバコ関係の商品です。タバコそのものは運んでいませんが、タバコに関わる商品ということですね。関東圏内の大手コンビニチェーンさんへのタバコ関連商品は、全て当社が運んでいます。

—それはすごい！ どうやってそんな大きな仕事を獲得されたのですか。

以前タバコの増税があるタイミングで、広島県で集中豪雨が起きました。それで、本来なら各社が新たなタバコ広告を出す予定だったのですが、九州方面への運送が間に合いそうにないと、断念したんです。そんな中で、ある会社さんだけ諦めずに当社に依頼をしてこられました。交通網が混乱する中でしたが全力で応え、唯一その会社の商品だけ九州で広告を出すことができました。その時の

働きを評価していただき、業界で社名が知られて大きな仕事につながっていったんです。

—それは、素晴らしい実績をあげられましたね！

今は1日100台ほどの軽貨物が稼働しており、当社の社員だけではなく協力会社の方も共に頑張ってくれています。ドライバーの年齢層は幅広く、下は19歳から上は75歳までハンドルを握っています。夜中に走ってくれる方もいるので、皆には「とにかく事故には気をつけるように」と伝え、安全第一で日々商品を送っています。

—この業界はドライバーが不足しがちだとよく聞きますが、それだけ稼働しているのすごいですね。

実は、夜の世界のほうが求人にも苦勞するんです。その時に、「この媒体よりこの媒体のほうが効果がある」など、求人についてのノウハウを磨いたので、今に活かすことができている。設立当初は私1人で始めたのですが、共に頑張ってくれる仲間や取引のある関係者さんに恵まれたお陰で、今があります。このままさらに成長し、いずれは上場企業を目指したいですね。そのために何が必要か戦略を練っていき、実現させたいです。

(取材／2020年9月)



縁に導かれて

鈴木社長が再び運送業界に戻り、地元である北海道から埼玉に移ることになったのは、先輩との偶然の出会いがきっかけだった。埼玉で物流会社を経営していた先輩が誘ってくれたことで、再びこの世界で勝負をする覚悟を決めたのだ。そして先輩の会社で経験を積ませてもらい、社長が独立をする際にも、レールを敷き「頑張れよ」と背中を押してくれたという。「先輩がサポートしてくれてくれたからこそ、スムーズに独立できました」と、代表は当時を振り返り感謝の念を述べる。現在でも同業者として良い関係を築いており、仕事の面で助け合うこともしばしばだという。また経営面で相談できる存在でもあるため、心強く安心感があるそうだ。

「あの時の出会いがなかったら、この業界に戻ることもなかった。夜の店を経営していたかもしれない」と社長。偶然の一言で片付けることもできるが、順調に結果を出している社長の姿に鑑みると、どこか運命的なものを感じるエピソードだ。



「鈴木社長はご自身がドライバーとして長く現場で経験を積まれてきて、ドライバーさんの苦勞などもよくわかっておられます。だからこそ、会社として「楽しく働く」をモットーに掲げ、働きやすい環境作りに注力されているとか。だからこそ、幅広い年齢層の多くのドライバーさんに恵まれているのだよね」
志垣太郎・談



株式会社 MTトランスポート

埼玉県川口市上青木6丁目38-10-2F
URL : <http://www.mt-transport.jp/>